

◆第6学年 学習指導案◆「心をこめて表現しよう」

教材：『ふるさと』
『いのちの歌』

調布市立多摩川小学校
第6学年2組 39名
指導者 大賀 見枝子 教諭

1 題材の目標

- (1) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付ける。
- (2) 旋律、強弱、音の重なり、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。
- (3) 曲想を生かした表現を工夫する学習活動に主体的・協働的に取り組み、6年間の自分たちの成長を振り返って感動をもって歌うことで、周りの人への感謝の気持ちをもち、心を込めて歌声を調和させて歌う学習に親しむ。

2 題材について

(1) 研究主題との関連

① 児童の実態から

第6学年の児童は、楽曲の雰囲気を感じ取り、それに合う声で表現しようとするが、具体的な言葉で伝えることが十分にできなかったり、友達と思いを伝え合うことにまだ慣れていなかったりする児童が多い。そのためワークシートを活用し気持ちを言葉で伝え、それを基にグループで話し合いをするなど段階を踏み、どのように表現したいかを伝え合う活動をしてきた。

第5学年の「詩と音楽との関わりを味わおう」では、教材『ぜんぶ』を扱い、作詞者が短い詩の中に込めた深い思いを感じ取り、自分に置き換えて気持ちを考え、歌唱表現に生かす学習をした。特に感情を表現している言葉「泣くこと 笑うこと 怒ること 喜ぶこと」に着目し、歌詞と曲想から歌声の出し方や強弱を工夫する活動を行った。その際グループで歌い、互いに聴き合う中で気持ちを伝え合うことができることに気付いた。第6学年「曲想の変化を感じ取ろう」では『あすという日が』を教材とし、歌詞と曲想の関わりを理解するだけでなく、旋律の重なりからも歌唱表現の工夫を深める学習をした。

今回「心をこめて表現しよう」の教材として用いた『いのちの歌』は、本校では卒業式で第5・6学年が合同で歌っている。昨年とは立場が変わり、曲に対する思いも変化していると予想される。

また『ふるさと』を学習することにより、時間の経過に伴う心情の変化や、情景と深く関わっている曲想や音楽の構造を理解し、より表現を深めることができると考える。卒業式ではこの学習を自分の表現に生かし、思いや意図をもち、心をこめて歌ってほしい。

② 題材の意義から

表現の工夫は、体の動きを伴って曲想を感じ取る活動や音楽づくりなど、歌唱だけではなく、表現や鑑賞の領域を通して取り組んできた。

ここでは6年間の学習の総まとめとして本題材を設定した。曲の特徴を捉え、曲想の変化に合った歌い方を工夫し、自分の思いを歌詞の内容に重ね、また自分の歌声を全体の中で調和させて表現してほしいと考えた。友達との対話を取り入れた学習の中で個の振り返りをしながら、全体により豊かに表現する方法を考える。これらの学びが感謝の気持ちと感動をもって歌うことにつながり、中学校での学習の礎となることを期待する。

(2) 学習指導要領との関連

【A表現：歌唱】(1) ア・イ・ウ(イ)(ウ)

本題材において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素

- ア 旋律、強弱、音の重なり
- イ 変化

3 教材について

●『ふるさと』 文部省唱歌/高野辰之 作詞 岡野貞一 作曲 浦田健次郎 編曲
出典：小学生の音楽6 教育芸術社

へ長調。4分の3拍子。二部形式。作曲から100年を超えてもなお歌い継がれ、郷愁を誘う曲である。讃美歌の影響を受けたという旋律と、文語体で書かれた詩が3拍子のリズムと合い、全体的に落ち着いた曲想である。1番で過去を回想し、懐かしいふるさとへと思いを馳せる。2番は現在に時間軸が移り、ふるさとの大切な人を思う。そして3番は未来に向けて、自らの志を決意する。豊かな情景とともに時間の流れを感じさせる歌詞の内容を理解し、旋律の動きや強弱との関わりについて、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら歌うことが、『いのちの歌』の歌唱表現を工夫する学習につながると考えた。

●『いのちの歌』 Miyabi 作詞 村松崇継 作曲 三宅悠太 編曲
出典：小学生の音楽6 教育芸術社

ハ長調。4分の4拍子。命について考えさせられ、感謝する気持ちが自然にこみ上げてくる感動的な歌詞と美しくゆったりとした曲想で、卒業式で歌われることも多い。歌詞の意味や、旋律と副次的な旋律の重なり、伴奏や間奏からも曲想の変化を感じ取りやすいこの歌は、多様な工夫をし、豊かな響きのある声で、友達と声を調和させて歌うことに適していると考えた。

今回、記載したりハーサルマークは、曲想が変化していると児童が考えた箇所を設定した。

A (1～8小節)：2小節のまとまりのある旋律が、少しずつ変化し繰り返されている。この小さなフレーズを、大きなまとまりとして感じ取って歌いたい。

B (9～16小節)：Aと同じ旋律の繰り返しだが、強弱が変化している。

C (17～24小節)：二部合唱。主旋律と副次的な旋律の様々な重なりによる、響きの違いを感じ取るようにしたい。

D (25～32小節)：基本はCの部分と同じ旋律の繰り返し。強弱の変化により曲の山であることが感じられる。

E (33～41小節)：ここでは大きく曲想が変化し、児童にも変化の様子は感じ取りやすく、多様な工夫ができると考え、本時と設定した箇所である。ソプラノで始まる旋律に2小節遅れてアルトの旋律が重なり、ユニゾンで歌う部分へと広がりを感じられる。このわずか10小節の中で劇的に変化する強弱と、16分音符の効果により躍動感の感じられる旋律の動きに、言葉の意味を合わせて考え、表現の工夫をしていく。さらに、伴奏は静寂を感じさせる2小節の和音の響きから、歌の旋律同様、躍動的な動きと深みのある音の重なりが感じられるよう変化しているのが特徴的である。この伴奏の動きからも曲想の変化を感じ取り、工夫につなげることを期待する。

間奏 (41～48小節)：転調し、まるで過去を回想させ、時の経過を感じさせるようなドラマチックな間奏。Eと間奏の部分では、ピアノ伴奏の特徴からも曲想の大きな変化を感じ取りやすく、表現の工夫につなげることができると考える。

F (49～56小節)：静かなユニゾンの旋律が、深く印象に残る部分である。

D' (25～C o d a部分)：旋律はDの繰り返し。歌詞の本意を感じ取り、自分に問い掛け、自分と向き合い、曲の終わりに向けて自然と溢れてくる感謝の思いを、心を込めて表現するようになりたい。

4 研究主題に迫るための手立て

視点1 「見つけよう」 主体的な学びの視点からの学習過程の工夫

① 音や音楽との出会いの場の工夫

『ふるさと』では歌詞の内容に合った風景や情景がイメージできる写真や同作者の作品に触れ、『いのちの歌』では作詞作曲の背景を知るなど、歌詞の意味や曲に対する作者の思いを想像し、理解しや

すいようにする。次に、旋律に歌詞が加わって生み出される曲想と強弱など音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解できるようにする。

② 見通し、振り返りを大切に学習の充実

楽譜とワークシートをセットにし、気付きや考え、曲への思いなどを書き込めるようにする。それを基に自らの表現に生かしたり、学習を振り返り、学びを自覚したりする手立てとする。また、これまで学んできた音楽を形づくっている要素や表現の工夫の手掛かりとなるキーワードをカードにしたり掲示したりすることで、今までの学習を振り返り、学習の見通しをもつことができるようにする。

視点2 「深めよう」 学びを広げ深める、対話を生かした学習の充実

① 児童同士の対話を生かした学習活動の工夫

児童の思いを実現し、学びを深めるために、児童同士の対話を生かした学習活動を設定する。ペアやグループごとに考えた表現の工夫を実践し、それが実現できているか聴き合う活動を取り入れる。それぞれの表現の工夫を全体で共有することで個人の考えを深め、思いや意図に合った表現を高めることにつなげる。なお、その際のペアやグループの編成は、児童の実態や学習内容に応じて行う。

② 学びを深める教師の関わり方の工夫

教師は、楽譜やワークシートに記入された内容から、一人一人の思いや意図を把握し、価値付け、個人や全体の学びが深まるようにする。

- ・個人用楽譜（楽譜とワークシートをセットにしたもの。各自表現の工夫や思いを記入し、教師が事前に個人の思いを把握できるようにする。）
- ・グループ用拡大部分楽譜（表現の工夫をする箇所を拡大印刷したもの。グループ活動時に書き込んだ部分を、教師がタブレットで電子黒板に映し出すことで、表現の工夫や思いを共有できるようにする。）
- ・全体用拡大楽譜（全曲をパネルに掲示したもの。一斉指導の際に出た意見や、事前に集約した個人の意見を教師が書き込む。書き込む際には、気付いたこと、感じたこと、技能的なことなど内容によって色分けし、視覚的に分かりやすくすることで全体の理解を深め、思いを共有する。）

視点3 「生かそう」 学びを生かし、つなげる指導と評価の工夫

児童の思考の深まりを促す教師の発問、様々な児童の状況に応じた教師の助言、指導の手立てを指導計画に記載する。本題材は年間指導計画では後方に位置付けられており、6年間の学習のまとめとして、更には小学校生活の中で得たかけがえのないものを振り返り、学びにつなげることができる。小学校生活の締めくくりである卒業式では、この学習を自分の表現に生かし、歌詞の内容と自分自身の心情を重ねて、心を込めて豊かに歌ってほしい。

5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①『ふるさと』の曲想と旋律、強弱、音の重なり、変化など、音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解し、自然で無理のない響きのある歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。</p> <p>②『いのちの歌』の曲想と旋律、強弱、音の重なり、変化など音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。</p> <p>①思いや意図に合った表現にするために必要な、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けて歌っている。</p>	<p>①旋律、強弱、音の重なり、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>①曲想を生かした表現を工夫し、思いを込め、歌声を調和させて歌う学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。</p>

時	○学習内容 ・ 学習活動	◇教師の働きかけ T「教師の発問や価値付け」	◆評価規準 (評価方法)
<p><第一次のねらい>曲想と旋律，強弱，音の重なり，変化など音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解し，情景や心情にふさわしい表現で歌う。</p>			
1	<p>○『ふるさと』1 番の曲想と音楽の構造や歌詞の内容とが関わり合っていることを理解し，歌詞が表す風景や作者の思いを想像して歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 三部合唱で歌われた範唱を聴き，曲のよさを感じ取る。 ・ 歌詞の意味を確認して1 番の主な旋律を歌い，思い浮かんだ情景や気付いたことを発言し合う。 ・ 歌詞と旋律の特徴，強弱に着目し，曲想と音楽の構造や歌詞とが関わり合うことに気付く。 ・ 曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを意識して，1 番の主な旋律を歌う。 ・ 曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて気付いたことを個人の楽譜やワークシートに書く。 ・ 楽譜やワークシートに書いたことを発表し，全体で思いを共有し，声を合わせ，1 番を歌う。 	<p>◇歌詞の内容に合った風景をイメージできる写真や，同作者の作品に触れ，歌詞の意味や曲に対する作者の思いを想像し理解するようにする。(視点 1-①)</p> <p>T「歌詞で歌いながら，音の高さを手で表し，歌詞と旋律がどのような関係になっているかを感じ取りましょう」</p> <p>◇旋律に歌詞が加わって生み出される曲想と強弱など音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解するようにする。(視点 1-①)</p> <p>◇音楽を形づくっている要素の振り返りをし，表現の工夫につなげられるようにする。(視点 1-②)</p>	
2	<p>○『ふるさと』2・3 番の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解し，思いをもって歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主な旋律を歌い，曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解し，個人の楽譜やワークシートに書く。 ・ 書いたことをペアまたは3 人グループで伝え合い，互いの思いや意図を知る。 ・ 伝え合った内容をペアの楽譜に書き込み，一緒に歌い試し，よさについて互いに伝え合う。 ・ 全体に向けて発言し，思いを共有し，声を合わせて歌う。 ・ 全体で自分なりの思いを込めて，1 番から3 番まで通して歌う。 	<p>T「歌詞と旋律の動きから曲想を感じ取り，作者が父母や友，ふるさとに対してどのような思いを抱いているのか想像してみよう。その想像をもとに，強弱などを意識して曲想を生かした表現で歌いましょう」</p> <p>◇思いや意図を書き込んだ楽譜を電子黒板に示し，全体で共有する。(視点 2-②)</p> <p>◇ペアで試した歌い方を全体で聴き合うことで個人の考えを深め，思いや意図に合った表現を高める。(視点 2-①)</p> <p>◇共有した思いを基に，全体でふさわしい表現を考え，その都度歌って試してから，全体を通して声を合わせて歌う。</p>	
<p>〈 A と判断される児童の状況例 〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『ふるさと』の曲想と，旋律や強弱，音の重なり，変化や歌詞の内容との関わりについて深く理解し，具体的に発言したり，楽譜やワークシートに記入したりしている。 ・呼吸や声の響きに気を付けながら，自然で無理のない，響きのある歌い方で，より豊かな表現で歌っている。 <p>〈 C と判断されそうな状況への手立て 〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人で楽譜やワークシートに書き込む際に，旋律や強弱等の音楽を形づくっている要素を分かりやすくまとめたカードを渡し，それを手掛かりにして考えるよう助言する。 ・電子黒板を参考にしたり，友達の声の聴いたりしながら歌うように伝え，旋律が聴き取りやすく，歌いやすい立ち位置を指定する。 			

◆知・技①
〈発言内容・ワークシートの記述内容・演奏聴取〉

＜第二次のねらい＞曲想と旋律，強弱，音の重なり，変化など音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解を深め，思いや意図をもって工夫した表現で歌う。

- 3 ○『いのちの歌』のこれまでの学習を想起し，どのように歌うかについて思いをもつ。
- ・音程，リズム，強弱，フレーズ，声の響き，発音，また，曲想と音楽の構造との関わり等，5年生の時に学習した知識を生かし，理解を深めて歌う。
 - ・卒業式で歌う際，誰にどのような思いを伝えたいかワークシートに書く。
- 『いのちの歌』の歌詞の内容と曲の特徴にふさわしい表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図をもつ。
- ・旋律が似ている部分と変化している部分があることに気付き，A，Bをどのように歌ったらよいか4～5人グループで話し合う。
 - ・表現の工夫をグループ用拡大部分楽譜に記入し，歌いながら試す。
 - ・全体場で工夫した表現を発表し，聴き合い，よさや気付いたことを発言し合う。その都度，全体で歌って確かめる。
 - ・A，Bで工夫した内容を個人の楽譜に記入する。
 - ・C，Dにふさわしい表現の工夫を考え，個人の楽譜に記入する。

- ◇ 掲示物等を活用して音楽を形づくっている要素を振り返り，旋律の動き，強弱の変化等に注目するようにする。(視点1-②)
 - ◇ 必要に応じて，音程やリズムを部分的に繰り返し歌唱する。
 - ◇ 個人の楽譜に，曲への思い，気付きや考え，旋律の特徴や曲の構成等を書き込み，表現の工夫に生かす。(視点1-②)
- T 「これまで学習した表現の工夫の方法を思い出して，卒業式で自分の思いを伝えられるように表現を工夫しましょう」
- ◇ 表現の工夫の手掛かりになる掲示を参考にするよう促す。(視点1-②)
 - ◇ グループごとに考えた表現の工夫が実現できているか聴き合う活動を取り入れる。(視点2-①)
 - ◇ グループで記入した楽譜を電子黒板に示し，全体で共有し個人の考えを深める。(視点2-②)

＜ Aと判断される児童の状況例 ＞

- ・『いのちの歌』の曲想と，旋律や強弱，音の重なり，変化と歌詞の内容との関わりについて深く理解し，具体的に発言したり，楽譜やワークシートに記入したりしている。

＜ Cと判断されそうな状況への手立て ＞

- ・個人で楽譜やワークシートに書き込む際に，旋律や強弱等の音楽を形づくっている要素を分かりやすくまとめたカードを渡し，それを手掛かりにして考えるよう助言する。

- 4 ○『いのちの歌』の歌詞の内容と曲の特徴にふさわしい表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図をもつ。
- ・C，Dをグループでどのように歌ったらよいか話し合う。
 - ・表現の工夫をグループ用拡大部分楽譜に記入し，歌いながら試す。
 - ・全体場で工夫した表現を発表し，聴き合い，よさや気付いたことを発言し合う。その都度，全体で歌って確かめる。
 - ・全体で声を合わせて，工夫した表現で歌う。
 - ・C，Dで工夫した内容を個人の楽譜やワークシートに記入する。
 - ・Eにふさわしい表現の工夫を考え，個人の楽譜に記入する。

- ◇ 事前に集約しておいたC，Dの表現の工夫を拡大楽譜に示し，全体で共有し個々の考えを深める。(視点2-②)
- ◇ 掲示物等を活用して，音楽を形づくっている要素の振り返りをし，曲想の変化と音の重なりとの関わりに注目するようにする。(視点1-②)
- ◇ 表現の工夫の手掛かりになる掲示を参考にするように促す。(視点1-②)
- ◇ グループごとに考えた表現の工夫が実現できているか聴き合う活動を取り入れる。(視点2-①)
- ◇ 個人の楽譜に，曲への思い，気付きや考え，旋律の特徴や音の重なり方等を書き込み，表現の工夫に生かしたり，学習を振り返り学びを自覚したりするようにする。(視点1-②)

◆知②
 〈発言内容・ワークシートの記述内容〉

<p>5 本時</p>	<p>○『いのちの歌』の歌詞の内容と曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Eをグループでどのように歌ったらよいか話し合う。 ・表現の工夫をグループ用拡大楽譜に記入し、歌いながら試す。 ・全体の場で工夫したことを発表し、聴き合い、よさや気付いたことを発言し合う。その都度、全体で歌って確かめる。 ・全体で声を合わせて、工夫した表現で歌う。 ・Eで工夫した内容を個人の楽譜やワークシートに記入する。 ・F、D'にふさわしい表現の工夫を考え、個人の楽譜に記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇掲示物等を活用して、音楽を形づくっている要素の振り返りをし、曲想の変化や副次的な旋律の動きと歌詞との関わりに着目するようにする。(視点1-②) ◇表現の工夫の手掛かりになる掲示を参考に促す。(視点1-②) ◇グループごとに考えた表現の工夫が実現できているか聴き合う活動を取り入れる。(視点2-①) ◇個人の楽譜に、曲への思い、気付きや考え、旋律の特徴や音の重なり方などを書き込み、表現の工夫に生かしたり、学習を振り返り、学びを自覚したりするようにする。(視点1-②) 	<p>◆思・判・表① <発言内容、演奏聴取・ワークシートの記述内容第2時から第5時を通し継続して観察></p>
<p>6</p>	<p>○『いのちの歌』の歌詞の内容と曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・F、D'を自分でどのように歌ったらよいか考え、歌いながら試す。 ・工夫したことを個人の楽譜やワークシートに書く。 <p>○『いのちの歌』の歌詞の内容と曲の特徴を生かした表現で、各声部や全体の響きを聴きながら声を合わせて歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや意図をもって、全員で声を合わせて合唱する。 ・これまでの学習を通して、表現が高まったこと、気持ちの変化、卒業式で歌う時の思い等をワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇個人の楽譜に、曲への思い、気付きや考え、旋律の特徴や音の重なり方などを書き込み、表現の工夫に生かす。(視点1-②) ◇今までの学習を生かし、歌声を全体の中で調和させて豊かに表現しているかを聴き合うように助言をする。 ◇友達との意見交流や教師の支援や価値付けによって、グループや全体での学びが、個人の表現の工夫につながるようにする。(視点2-②) <p>T「昨年参加した卒業式を思い出してください。今年は自分が歌う姿を想像して、どのように歌い、何を伝えたいですか」</p>	<p>◆技③ <演奏聴取第3時から第6時を通し継続して観察></p> <p>◆態① <発言内容・演奏聴取・ワークシートの記述内容第1時から第6時を通し継続して観察></p>
<p>〈 Aと判断される児童の状況例 〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各声部の歌声や全体の響き、伴奏をよく聴いて、自分の歌声を全体の中で十分に調和させて歌声を響かせて歌っている。 <p>〈 Cと判断されそうな状況への手立て 〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拡大楽譜や板書を参考にしたり、友達の声の聴いたりしながら歌うように伝え、聴き取りやすい立ち位置を指定する。 			
<p>〈 Aと判断される児童の状況例 〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いをもとに気付いたことや考えたことを、具体的に音楽を形づくっている要素と関わらせて的確に楽譜やワークシートに書き、歌詞の内容や曲想を生かし、心を込めて表現する学習に主体的に取り組んでいる。 ・グループ活動では積極的に発言したり実際に歌ったりして、グループにおける表現の工夫に粘り強く協働的に取り組んでいる。 <p>〈 Cと判断されそうな状況への手立て 〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、ワークシートの内容からも学習状況を捉えた上で、歌詞の意味を自分なりに考えたり、友達の表現の工夫のよさに気付いたりできるように、助言する。 			

7 本時の展開

5 時間目

(1) 本時のねらい

『いのちの歌』Eの歌詞の内容と曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。

(2) 本時の展開

○学習内容 ・ 学習活動	◇ 教師の働きかけ ◆ 評価規準 (評価方法)
<p>○『いのちの歌』Eからの曲想の変化に気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を振り返り、全員でA～Eを歌う。 Eで曲想が大きく変化することに気付き、どのように歌うとよいか、発言する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【予想されるワークシートの内容と児童の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> 曲想がこれまでと一変する。 始めは単せん律、途中からせん律の重なりがある。 強弱を生かして歌いたい。 言葉の意味に合った歌い方で歌いたい。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 意見を整理しながら歌って試し、本時の活動の内容を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇前時に記入された個人の楽譜とワークシートから一人一人の思いや意図を把握し、全体の指導や支援に生かすようにする。(視点2-②) ◇強弱、旋律や副次的な旋律の動き、歌詞の内容から表現の工夫をしてきたことを拡大楽譜で確認する。(視点1-②) ◇Eの曲想の変化を伴奏からも感じ取れるように、伴奏も強弱に気を付けて弾くようにする。 ◇どのように歌うかについての根拠を楽譜から見付けられるよう、拡大楽譜で示し、児童の発言を価値付ける。(視点2-②)
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <h3>Eの歌詞の内容と曲の特徴にふさわしい表現を工夫しよう</h3> </div>	
<p>○『いのちの歌』Eの歌詞の内容と曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 4～5人グループで表現の工夫について話し合い、どのように歌ったらよいかをグループ用の楽譜に書き込み、歌いながら試す。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【グループ活動で予想される児童の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> 強弱を生かして歌う。 最初は、語りかけるように優しく歌う。 最初は糸が張ったような、きん張感のある感じで歌う。 だんだん前向きな気持ちになっていく様子が感じられるように歌う。 最後のfは、次の間奏に受け渡すように力強く、希望をもった感じで歌う。 </div> <ul style="list-style-type: none"> グループで工夫した箇所を全体の場で歌い、互いに聴き合い、よさや課題について発言し合う。 共有した思いを基に、全体でふさわしい表現を考え、その都度、全員で歌って試しながら表現の工夫をする。 	<p>T「Eの部分は、曲想が大きく変化していますね。歌詞の内容も考えて、グループで歌って試しながら表現を工夫しましょう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇これまでの学習で使用してきた【表現の工夫の手掛かり】の掲示物を活用して、音楽を形づくっている要素の振り返りをし、曲想の変化や副次的な旋律の動きと歌詞との関わりに着目するようにする。(視点1-②) <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【表現の工夫の手掛かり】 掲示物</p> <ul style="list-style-type: none"> 旋律の動き (音程 リズム) 旋律のまとまり (フレーズ) 旋律の重なり方 和音の響き 音の強弱 伴奏 歌詞 (言葉の意味や言葉から読み取れる思い) </div> <ul style="list-style-type: none"> ◇グループごとに考えた表現の工夫が実現できているか聴き合う活動を取り入れる。(視点2-①) ◇グループで記入した楽譜を電子黒板に投影して示し、全体で共有できるようにする。(視点2-②) ◇グループの話し合いの内容を、類似、相違、付加に整理し、発言の順番を考慮し、少数の意見も取

	<p>り上げ児童が考えを広げたり、深めたりできるようにする。</p> <p>◇ワークシートや友達との意見交流、教師の支援や価値付けによって、グループや全体での学びが、個人の表現の工夫につながるようにする。 (視点2-②)</p>
<p>◆旋律、強弱、音の重なり、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの間わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもっている。思・判・表①〈発言内容、演奏聴取・ワークシート記述内容〉</p> <p>〈Aと判断される児童の状況例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の内容と曲の特徴に着目し、音楽を形づくっている要素などを根拠に自分の思いや意図をもち、表現の工夫について深く考え、楽譜やワークシートに具体的に書き込んでいる。 ・表現の工夫を考える際には、具体的に音楽を形づくっている要素を用いて発言し、歌って試しながら、より豊かな表現を追求している。 <p>〈Cと判断されそうな児童への手立て〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現の工夫をする際の具体的な方法を説明し、理解できたかを確認したり、助言したりしながら進める。 ・グループ活動では、友達の表現の工夫のよさに着目するようにしたり、これまでにワークシートに記述したことを振り返り、一緒に確認したりするなど、対話しやすいように教師が助言する。 	
<p>○本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体で声を合わせて、自分たちが工夫した内容で曲想を生かして歌う。 ・今日の学習で工夫したことや高まったことをワークシートに記入する。 ・F, D' の工夫を個人の楽譜に記入する。 	<p>◇グループで書き込みをした楽譜を見ながら、伴奏に合わせて思いをもって歌うようにする。</p> <p>T 『いのちの歌』の最後の部分に向けて、次回はどのような表現の工夫ができるか、考えてみましょう」</p> <p>◇個人の楽譜に、曲への思い、気付きや考え、旋律の特徴や音の重なり方などを書き込み、表現の工夫に生かしたり、学習を振り返り、学びを自覚したりするようにする。(視点1-②)</p>

助言者の言葉

歌唱の授業

① 技能をとまなう ② 行事とのかかわりが多い ③ 第三者の目が入ることから、いまだに成果主義になりがちである。また児童の思いや願いを大切にしている授業においても教師主導、教材主義になることが多くみられる。これからの歌唱授業においては

① 学習の連鎖と系統性の具体化
② 児童の思考や気づきからの技能指導
③ 他の学習内容との関連・統合

について指導者が研究を深めていくことが望ましいといえる。今回のゾーン研究での提案がそれらを深めるきっかけとなることを願っている。

町田市立鶴川第二小学校 主任教諭 眞鍋 なゝ子